



初心者の方や4時間足の優位性の動画という基本編はこちらをご覧ください

ご注意

この動画は4時間足の準優位性ということで難易度が高いです

takeruさんが「こういうところも取れる」とか「こういうところも実は簡単」と言っているところを体系化したつもりです。

takeruさんは先生で僕は生徒なので、takeruさんは数十人の為に100人200人が混乱することは言いにくいはずですが、数十人にはとって欲しいと思っているところがあります。僕は100人200人混乱したら僕のは気にしないでtakeruさんの言う通りにやってくださいと言いますから、数十人相手に役に立てればいいなと思ってます。

難易度が高いとは似て非なるものや引っ掛けが多く損失回数が必然的に増えます。十分な検証やデモトレードでの練習をした後に実践してください。

今日はこれはダメっていうのをしつこいほど繰り返すと思いますが、それは僕が心配で損切りまみれになった経験の元、そういう経験をしてほしくないという思いがあるからです。ダメじゃなくていけるんじゃないかって事もあるかと思いますが、それは各自検証してください。

基本

準優位性とは

優位性のように明確なトレンド転換シグナル=高安値更新はしていないけど、トレンド転換の示唆が出ていて、4時間足の波に派生していく可能性があるところ

トレンド転換の示唆とは高安値を更新する前に「4時間足のトレンドもう終わったんじゃない？」という市場参加者が思い始め、トレンド転換や利確する波に乗りたいたいと考えている。

何を以てトレンド転換の示唆というかは、トレンドライン抜けたケースと4時間足の2番天井・底をつけたケースの2つを今回は示唆として扱う

4時間足の派生とは1時間足の波が4時間足で見える波になるということ。

要するに1時間足を環境認識とするトレードをする

トレンドフォローという考え方は変わらない

1時間のトレンドをフォローする

P 1時間足トレードは上昇トレンドの形ができて、待つのは15分足2番底ネックラインが基本

4時間足のどのエリアで1時間足のトレードをするのがポイント

下落トレンドから上昇トレンドへの転換を狙う場合、4時間足の方向はまだ下のままで変わっていない=高値は超えていない

伸び切っている

上位足の節目で止められている

4時間足の高値が必ずリスク=止められる可能性がある

#4時間足の高安値を超えたら4時間足の波が始まるので15分ダウ崩れに切り替える

5分ダウ崩れで決済が基本

ただし、トレンド転換しそぞという示唆を感じるによって、その次の押し目買いの精度が高まる。高値超えの認識が変わり、高値超えがトレンド転換と発見する人ではなく、高値を超えたことがトレンド転換したという確認になる。

トレンドラインの引き方と考え方

安値と高値を超えたことのある安値に引いて、それが3本目効くかどうかで効果的なトレンドラインがどうか判断する

効かなくなったら、新しい始点となる安値から高値を超えたことがある安値に引く

ルール通りに引いて、xxx時間足のトレンドラインと認識するのがこのあとすごい重要になります。

特に日足のトレンドラインと4時間足のトレンドラインを間違えると大変なことになります。

エントリーパターン2

4時間足の準優位性

4時間足が日足・週足の節目で2番底を作って4時間足2番底目にいる

1時間足が綺麗な上昇トレンドの形を作っていたらロングをする

P 15分足二番底ネックライン超え

4時間足の高値がリスク=抜けない可能性がある

スウィングトレードでも同じ

4時間足では5波がトレンドライン内で終わる「そろそろ利確しようかな」という勢いが出てくる

① 4時間足でもローソク足1本2本抜けてトレンドラインを抜けたというのがわかる

P1時間足では明確にトレンドラインを抜けた後の1時間足の注文の集中割れ

P1時間足では明確にトレンドラインを抜けた後の押し目買い

② 4時間足がトレンドラインを抜けそう=トレンドライン上で攻防が行われている

P1時間足では明確にトレンドラインを抜けた後の1時間足の注文の集中割れ

P1時間足では明確にトレンドラインを抜けたからのトレンド発生

4時間足のトレンドラインを割った

勝率が下がるところ

成功例

勝率を下げるケース

4時間足のトレンドラインの内側で1時間足の注文の集中抜けでのエントリー

成功例

勝率を下げるケース

4時間足のトレンドラインの内側で1時間足のトレンド発生からのエントリー

トレンドラインの時間軸を間違っている

日足のトレンドラインに対して1時間で同じことをすると負けやすい

トレンドラインは“何時間足の”が大事

1時間足

日足・4時間足

この黄色のトレンドラインが日足のトレンドライン=1時間で抜けてもエントリールールにはないので注意。

似て非なる負けパターン

エントリー時に下位足に落とすタイミングを間違っている

15分のトレンド発生でエントリーしてしまう

これもアーリーエントリーの一例

4時間足のトレンドライン抜けからのエントリーは上の①、②が条件。

トレンドラインの内側から15分のトレンド発生で抜けることを期待するのは間違い

4・1時間を見ると明らかにエントリーはできなかったケースになる

トレンドラインの外側でも1時間足を無視して15分足のトレンド発生でエントリーするも間違い

15分で見ると上昇しそに見える

15分に落とすのは1時間足の押し目買いするところのみ

4時間・1時間

15分でエントリーしてしまいがちなポイント

4時間足のトレンドライン上で抜けたよね確認は15分というのはこの場合違う

直感と直観

左脳型の人はこのようにパターン分けするのが得意だと思うので、何度も繰り返していくうちに頭の中に入ってくると思います

右脳型の人は直感が働かずどうしたいというのがくると思うので、その感覚を直観にしていけるかなあ？と思います、わかりません。

つまり行き着くところは左脳、右脳のバランスが取れた直観力をつけることによって、市場参加者やマーケットと融合するイメージになるのですが、話しが飛びすぎるのでまたの機会にします。

そのうちパターン分けする前に「どうしたい」という直観が働きます。この直観が正しいんですが、今度は左脳が「いや、パターンを厳密に当てはめるとな、でもな」と止めてきます。このズレを合わせていくことがまた必要になってきます。